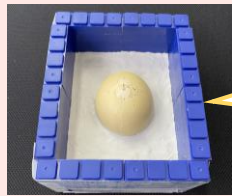


★ 名古屋港流 擬卵の作り方 ★

STEP1 擬卵を作るための鑄型を作る

- ①卵を中心に板とブロックを使用して囲い、油粘土を横にした卵の下半分が隠れるように敷き詰める



卵は中身を抜いた本物の卵もしくは既存の擬卵を使用する。
粘土は表面はフラットにならして隙間なく敷き詰めることが大事！

- ②敷き詰めた油粘土にかみ合わせ用の穴をあける
- ③シリコンを枠の中に流し込む
- ④シリコンが固まったのを確認し、シリコンから油粘土を外す
- ⑤反対側(油粘土で覆っていた側)に再度シリコンを流し込む



流し込むときは空気が入り込まないように気を付けながら！！

- ⑥最後に卵を外したら卵の鈍端部側に樹脂を流し込む入口をあけて完成！！



一度鑄型を作ってしまうとあとは下のSTEP2で大量生産が可能！！

飼育係は時に工作もします！

ペンギンタイムズ 「擬卵」マストアイテム！ ペンギンの繁殖シーズンについて

STEP2 樹脂を使って擬卵をつくる

- ①鑄型の周囲を輪ゴムで固定する
- ②ウレタン樹脂A液、B液を必要量用意し、混ぜてから鑄型の入口に流し込む



A液とB液は混ぜたら数分で硬化が始まるので素早く且つ丁寧に！！

- ③樹脂が固まったのを確認して型を外し、注ぎ口の部分を切り落とす



固まったばかりは熱をもっている
のでヤケド注意！
必ず手袋をして取り外すこと！！

- ④やすりでバリとりをする
- ⑤冷えて硬化したら完成！！



どちらが本物の卵でどちらが擬卵
卵が分かりますか？左側が擬卵
で右側が本物の卵(卵殻標本)です。
ペンギンが抱いている状態だと飼育係もパッと見では
本物か！？と疑うほど。

繁殖シーズンの到来
現在、ペンギン水槽ではアデリー、ヒゲ、ジェンツの3種が繁殖シーズンを迎えている。それぞれペアを作り、小石を集めて巣作り、小石を積み重ねて小石に加えて繁殖の「擬卵」と呼ばれる偽物の卵。実はこの擬卵は飼育係の手作り。そこで今回は製作方法について紹介する。

用途多数！こんな時とかに擬卵を使います
①卵の保護と抱卵行動の維持
ペンギンの繁殖はむやみやたらに実施しているのではなく、遺伝的多様性を維持できるように血統管理をしながら行っている。特に有益なペアの卵についてはふ卵器と呼ばれる専用の機械で温めてふ化させる。その間親には擬卵を抱いてもらい、ふ化後に卵とヒナを交換する。
②闘争の沈静化を図る
卵を産むとオスとメスが交代で卵を温める。その時に誤って踏んだりして卵を割ってしまうことがある。卵が無くなると守るものが無くなり、他の巣のペンギンに攻撃しにくくといったことが過去にあった。特にヒナを育てている時期にはヒナが巻き込まれてしまったペアには繁殖シーズンが落ち着くまで擬卵を抱いてもらっている。
③展示としての利用
擬卵は本物の卵と同じくらいの重さで作られているため、重さを感じてもらったりなど教育ツールとしての役目も。実際に南館3階ペンギン情報コーナーに展示されている。

ペンギン類では巣内にある卵に似たものに対して、卵と認識するのにも大きな違いがあります。そのため擬卵のクオリティは高くてもある程度は丈夫なもので一度作れば数年に渡って使用できます。名古屋水族館では擬卵を作っていますが他に中身の空にした本物の卵の中に石膏を流し込む方法など作り方は多数あります。今シーズンも擬卵を駆使して可愛らしい赤ちゃんペンギンが誕生するのを楽しみにしています。

担当飼育係の声